

■ 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会第9回年次大会準備中！

2024年9月21日（土）北海道札幌市で開催
「ACPサイクルでつなぐ人生会議」
～話す、残す、伝える、見直す～

会場 かでの2.7（札幌駅より徒歩約10分）

<https://homepage.kaderu27.or.jp/>

会場参加型（一部後日オンデマンド配信あり）

※オンデマンド配信のみの申込も可
終了後、懇親会あり

http://jacra.umin.jp/acp_meeting9/index.html

ホームページから参加申込・演題登録を開始しました。



－大会長－
福田 直之先生 澤田 格先生



コロナ禍で第6回（2021年度）～第8回（2023年度）はオンラインでの開催でしたが、今回は4年ぶりに対面開催（一部後日配信あり）としました。終了後の懇親会も復活させますので、ぜひ多くの方に北海道札幌市に足を運んでいただければと思います。

対面開催ですので、複数の会場で参加者同士がACP実践について語り合う場を多く設けることとしました。全国が多職種の方々が積極的な議論を通して交流をしていただければと思います。

プログラムですが、厚生労働省の方に特別講演としてご登壇いただきます。令和6年度診療報酬改定では入院基本料等の見直しにより人生の最終段階における意思決定支援を推進する観点から、意思決定支援に関する指針を作成することとなりました。その点を中心にご説明いただける予定です。各医療機関での意思決定に関する指針の作成や意思決定支援、ACP推進が課題となってきます。シンポジウム「医師と看護師で語る病院でのACP～ACP学びのサイクルの提案」では3病院の医師、看護師に登壇いただき、病院内でのACP普及・推進・研修等について議論をします。

様々なテーマで議論をする場を設けていますシンポジウム「介護施設×救命医×弁護士～ACPサイクルと臨床倫理課題を語る」では特別養護老人ホームの施設長、病院の救命医が高齢者の救急搬送の事例

とその倫理的課題について事例を通して議論し、法的観点で弁護士にも加わっていただく難しいテーマを取り上げました。当日最終セッションのシンポジウム「ACPが難しい事例とは～#ACPサイクル#救命医療#身元保証人不在」では在宅医、救命救急センター看護師、医療ソーシャルワーカーが昨今のテーマである救命医療とACP、身元保証人不在とACPなど直面している課題を議論します。

これから重要な介護現場でのACP普及、推進、教育について、エンドオブライフケア協会のご協力をえて「ACPに必要なコミュニケーションスキルを磨くには」という特別教育講演を行います。

その他、ディスカッションルームとして、演者・参加者が徹底的に議論する場として「在宅・高齢者施設等でのACP～ACPサイクルと多職種連携」「嚥下機能と誤嚥性肺炎～ACPサイクルを意識した多職種連携」の2セッションを設けました。

日々の実践の発表の場として一般演題、ポスター発表も設けていますので、積極的な登録をお願いします。

終了後は、会場近くで懇親会を開催します。北海道の味覚を楽しみながら、ACPを語り合う時間になればと思います。

ACPを語る、考える機会として、全国から多くの方のご参加をお待ちしています。

■ プレ企画その2開催しました

急性期医療と介護施設とのACP

3月15日（金）オンラインで「急性期医療と介護施設のACP」という医療介護現場で課題となっているテーマについて議論を行いました。

演者に栄町ファミリークリニック院長の中川貴史先生、慈啓会特別養護老人ホーム施設長の谷口俊弘先生、札幌医科大学医学部救急医学講座助教、高度救命救急センターの井上弘行先生、総合大雄会病院副院長の宮部浩道先生をお招きしました。

救急搬送時におけるACPや臨床倫理課題について議論を深めました。興味の合うテーマであったようで200名を超える申し込みがありました。

続編は9月21日（土）第9回年次大会当日に行います。お楽しみに。

座長・演者の皆さんの写真です。



（アンケート）

- ・私は施設看護を行なっているもので在宅と病院、家族の救急の温度差にどうにか差を埋めて穏やかに過ごさせたいと願っていたので今回の話題がぴったりでした。
- ・救急医療でのACPに関する課題や悩みが共有できよかった。施設側の困難さも理解できたが、搬送されてからの難しさも理解が広まったのではないかと感じた。また入院し改善し退院した時がACPの開始時という話を聞いて実践してみようと思った。
- ・医師やコメディカルにおいても判断に苦慮したり検討が必要な難しい課題ということが分かった。
- ・急性期医療の現場と介護施設とのACPの考え方、取り組み方が具体的に知ることができた。
- ・在宅、介護、救急、ICUそれぞれの立場での現状や課題を知り、役割が存在することが知れた。また、自分が勤務している地域の病院での課題を確信しました。
- ・急性期での課題を病院側としても取り組んでいる様子が分かりました。いろいろやれることはあるんだなと感じた。
- ・訪問診療医、介護施設、そして最後の砦である救急医療におけるACPの考え方について考える機会となって、地域におけるACPの啓発について考えていきたいと感じました。

【事務局】

〒062-0034 北海道札幌市豊平区西岡4条4丁目1-52

西岡病院内（担当 岡村 紀宏）

☎011-853-8322

E-mail : acp.study.group@gmail.com



ホームページ



Face Book